
魔王勇者物語

猫山 茶太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王勇者物語

【Nコード】

N0105Y

【作者名】

猫山 茶太郎

【あらすじ】

初の投稿になります。

これから脳内の妄想や思いつきをどんどん形にしていきたいと思えます。

いきなり連載小説書いて大丈夫なのか自分。

目指せ完結！

召喚されたのは…(1)

薄暗い牢獄の奥深く。

数ある牢の中でも特に嚴重な造りをしたそこには、

両手と両足に枷を着けられ、幾重もの鎖に拘束された囚人の姿。

見にまとう布はボロボロで、もはや衣服とは言えぬ有様。

元はさぞ美しかったであろう銀髪は、色艶を失い、足元まで伸びきり、散らばっている。

ここに囚われて幾年。

食事も水も与えられず、生の気配が欠片も感じられぬ永遠の間。

囚人の肉体と精神は限界を迎えようとしていた。

「これまでか…」

乾いた唇から漏れ出す声は、耳を澄ませても聞き取れぬほどに弱い。

囚人は自分の中から、急速に熱が失われていくのを感じた。

意識がぼんやりと薄れ

奇跡が

起きる。

囚人が最期の間際に見たものは強烈な光。

囚人の身体は光に包み込まれ、消え去った。

気がつけば光の中にいる。

その光は優しく、暖かく、囚人の身体を包み、癒していく。

「この光は…?」

しばらくして、光は少しずつ薄れ、代わりに気配が感じられるようになった。

それは囚人を取り囲むようにして存在しているが、敵意はないようだ。

むしろ期待や希望といったものを感じる。

「もしや、この気配…」

光が完全に消え去ると、それらの気配は驚愕に変わった。場を沈黙が支配し、まるで時が止まったかのよう。

囚人がゆっくりと目を開いていけば、はっと息を呑む気配。周りを見渡せば、囚人を取り囲む多数の人間。

「やはり…か。」

誰もが驚きに目を見開き、硬直していた。

中には気を失い倒れている者もいるようだ。

やがて、いち早く我に返った人間が、震える声で言葉を放つ。

「ま…魔族…」

それは蚊の鳴くような小さなものであったが、しんと静まったこの場には十分なもの。

止まった時は動き出し、人々はたちまち恐怖に支配されていく。

「なぜ魔族が?!」「死にたくない!」「助けてくれ!」

我先にと押し合いながら逃げ出す者たち。

混乱した中、武器を持った者たちが、それを囚人に突きつけ、素早く取り囲んでいく。

よく訓練された兵士だと、囚人は思った。

「私は何もせんよ。」

そう言つて囚人は、じゅらりと鎖がぶら下がった両手を挙げて、降参の意思表示。

「いきなり逃げんでもよかろうに…」

溜息と共に言葉を漏らす。

その姿は、なるほど、足元まで伸びた長い髪は銀色、髪の間から覗くのは尖った耳、

濃い褐色の肌、紅く輝くルビーのような瞳。

この世界で魔族と呼ばれる者の特徴を全て揃えていた。

「ところで…」

自分を取り囲む兵士たちを見回す囚人もとい魔族。

その中で隊長らしき姿を見つけると、その者に声をかける。

「すまぬが、何か着るものを貸していただけぬだろうか。」

隊長らしき者は、話しかけられたことに驚き、そして視線を下へと移し、赤面。

他の兵士もそれに釣られるように視線を動かし、

頬を染める者、目を逸らす者、武器を落とし慌てて捨てる者。

囚人が身に着けているものは、衣服の役割を果たしていないボロ布と鎖がついた枷のみ。

つまり半裸状態で、柔らかそうな肌と男性には無い二つの膨らみと

…が晒されている。

ようするに、囚人は魔族で、女性であった。

場は妙な空気に支配され、兵士たちは目を逸らし、どうしたものかと困惑する。

その中、ゴホンという咳払いをする隊長。

「…失礼した。おい、適当に着るもの持ってきてくれ。」

部下に指示を出し、下っ端らしき兵士が慌てて走り去っていく。

それを見届けた囚人は隊長に微笑む。

「すまぬな。ありがとう。」

隊長の表情がびしりと固まった。

見回すと他の兵士も惚けたように佇み、隙だらけになっている。

素早く立ち直った隊長が怒鳴り散らした。

「お前ら！油断するな！相手は魔族だぞ！！」

兵士たちは、はっと我に返り、立ち直っていく。

「…」

そんな様子を囚人は首を捻りながら眺めていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0105y/>

魔王勇者物語

2011年10月29日03時13分発行